

森のちやれんがニュース

2016 秋



屋上スカイビューもお楽しみください

みなさんは、高い場所から札幌の街をごらんになったことがおありですか。高い場所から札幌の都心部を眺めることができる場所といえば、藻岩山展望台や旭山公園などが有名です。野幌森林公園のひろがりを遠景に、都心の高層ビルを西側から眺めることができます。一方で、手稲山や藻岩山のやまなみをバックに市街地を東側から眺めることのできる場所は、おおくはないようです。その数少ない場所の一つが、北海道博物館なのをご存じでしたか。北海道博物館の開設にあたり、この眺めを楽しんでいただきたという

思いから、屋上を整備しました。春から秋にかけての季候のよい時期に、みなさまをご案内しています。ここからの眺めは360度。広大な野幌の森のひろがりも楽しんでいただくことができます。

*屋上スカイビューは、安全性を考慮して、公開日時を限らせていただいております。本年度は、9月19日(月)、22日(木)、10月10日(月)、11月3日(木)を予定しております。ただし、雨天や強風などの場合は開放を中止します。なお、札幌市都心部の眺めは展示場2階からも、お楽しみいただくことができます。



CONTENTS

- ② 特別展「ジオパークへ行こう！」近況報告
「北広島子ども学芸員」が大人気マンモスゾウ実物大模型を解説
- ③ 企画テーマ展企画者インタビュー
「漂着物のメッセージ」 圓谷 昂史
- ④ 研究活動紹介
「文化財の健康診断」 杉山 智昭
- ⑥ 博物館スタッフインタビュー
解説員 折館 里佳
- ⑦ アイヌ民族文化研究センターだより
- ⑧ 行事のおしらせ／活動ダイアリー

特別展「ジオパークへ行こう！」近況報告

「北広島子ども学芸員」が大人気マンモスゾウ実物大模型を解説

特別展「ジオパークへ行こう！」の期間中、北海道博物館のグランドホールでは、マンモスゾウの親子の実物大模型を展示しています。写真撮影のために列ができるほど人気のこの模型は、約770名の北広島市の小中学生などの手で、つくられました。

北広島市は、日本で唯一、古型マンモスゾウとケナガマンモスゾウの化石が発見されており、さらに2014年には北海道博物館などとの共同研究によって約4万5千年前の北広島市周辺でケナガマンモスゾウとナウマンゾウが共存していた可能性が明らかになるなど、現在ゾウ化石に関して日本で最も新しくかつ重要な情報を発信しています。他方で、特別展「ジオパークへ行こう！」では、北海道から産出する様々な時代の古生物の展示を通して、「ジオパーク」で、1億年前から現在までの、一億年時間旅行ができることを伝えています。マンモスゾウも、そうした古生物の一つであることから、北広島市エコミュージアムセンターと北海道博物館が共同して、スタイロフォーム製の実物大「北広島マンモス」を、北広島市民と共に制作・展示する「北広島マンモス復活プロジェクト」を実施しました。エコミュージアムセンターの畠学芸員と当館の添田学芸員が中心となり、北広島市内の小中学校10校を訪れて、小中学生の協力を得たほか、エコミュージアムセンターでの作業には、公募で集まった小中学生や高校生、大学生が参加しました。完成した模型は、7月6日にトレーラーに乗せられ、制作に携わった小中学校を回りながら、北海道博物館に運ばれました。その様子が生中継でテレビ放送されるなどし、注目を浴びました。

7月29日と8月6日には、制作に携わった小学生33名のうち14名が「子ども学芸員」となり、来館者に、模型制作の過程やマンモスゾウの解説を行いました。事前に練習をしてこの日を迎



えたという6名の「子ども学芸員」にお話をうかがったところ、来館者からは制作にかかった日数や素材を質問されたほか、大曲小学校3年生の間地優羽さんは、「ニュースで見たよ、すごいね」と声をかけられたとのこと。双葉小学校の澤本葉奈さん、内浦梨那さんからは、「はじめは（来館者に話しかけることを）緊張したが、今（終えた時点）はもっとやりたい」との感想をうかがいました。「子ども学芸員」は、制作の状況や苦労話を伝える活動を通じて、模型が「自分たちのもの」だと思いをいっそう強くしたようです。一連のプロジェクトの仕掛人、畠学芸員は、市の文化財を「自分たちのもの」だと思いを市民に抱いてほしいとの願いから、小中学生に、こうした模型の制作や解説の機会を提供する活動を続けてきました。今回のプロジェクトは、北広島市民とマンモスゾウという市の文化財との結びつきを、北広島市のみならず、広く道内のみなさまに知っていただけたのではないのでしょうか。

お話をうかがった「子ども学芸員」（8月6日午後の部に参加）の6名 左から、大曲小学校2年生の夢田和真さん、3年生の平野翔さん、八田瑛太さん、双葉小学校4年生の澤本葉奈さん、内浦梨那さん、大曲小学校3年生の間地優羽さん（同校1年生の間地真生さんは撮影時不在でしたが、この部に参加していました。）



「子ども学芸員」八田さんと解説に聞き入る来館者



北広島市エコミュージアムセンター畠学芸員

特別展来場者が3万人 総合展示室来場者が20万人に

特別展「ジオパークへ行こう！」の来場者数が8月12日に3万人に、また前日の8月11日には、北海道博物館総合展示室の来場者数が20万人となりました。



ジオパーク来場者3万人記念イベント 函館市からお越しの福田琢登さん、清登さん、福田颯真さん達一行に、館長から各ジオパークの特産品が詰まった「ジオのめぐみセット」を差し上げました。

企画テーマ展「漂着物」企画者インタビュー

漂着物のメッセージ

10月14日(金)から11月27日(日)まで開催される第6回企画テーマ展「きれい？不思議？楽しい！？漂着物」の展示プロジェクトチームチーフ、圓谷研究職員に、漂着物の魅力や展示のみどころをうかがいました。

——漂着物とはなんですか。

漂着物は海辺に流れ着いたただのゴミ。でも見方を変えれば、貴重な情報が詰まった、海から来る宝物と言えます。例えば、自分が漂着物を調べるきっかけとなったのは、大学三年生のときに先輩の調査についていき、たまたま出会ったアオイガイ。はじめはあまりにきれいなその見かけに驚いたのですが、それだけではなく、暖かい海に生息するというアオイガイの性質から、その漂着の分布を調べることで、海の変化が見えてくることがわかりました。漂着物には、本当にいろいろなものがあります。貝や流木、動物の死体を目にすることもあります。また、ペットボトルやビンなどの人工物も多いです。そうした、一見ゴミと思われるものも、一つ一つがそれぞれの物語を持っています。その物語を拾い上げ、探り、広げていくことが、研究や環境保全の活動につながると考えます。



研究職員 圓谷 昂史

1988年生まれ。札幌市出身。2013年より北海道博物館研究職員。専門は古生物学。写真は漂着物研究のきっかけとなったアオイガイ(「カイ」と名はつくけれどタコ的一种)と。

つまり、漂着物へのアプローチの仕方は、人の数だけ、さまざまにあるということです。今回の展示会でも、専門分野の異なる他の学芸員とともに、多様な切り口で漂着物に迫ります。ぜひ多くの方に、漂着物のメッセージを受け取りに来ていただきたいです。

——圓谷研究職員は漂着物の採集や観察法を紹介した本を出されていますが、展示でもその説明はありますか。

漂着物を探して集めたり、観察することを「ビーチコーミング」と呼びます。もちろん、展示でその方法を紹介します。その方法を解説した小冊子『北海道ビーチコーマーズガイド-北の海

辺のたからさがしー』は、テレビや新聞で紹介していただき、予想以上にたくさんのご要望があり、残部がなくなっていました。最近海岸で調査をしていると、ビニール袋を持って歩く「ビーチコーマー」と思しき人を見かける機会が増えました。環境保全の取り組みの一環で、ビーチコーミングを行う地域や企業が増えてきているそうです。こうした関心の高まりや、さまざまな活動も、展示で紹介します。展示を見た人にも、是非、漂着物を探しに海に出かけていただきたいです。この展示会が、海や海辺が見直されるきっかけになればと思います。



さまざまな漂着物で溢れる圓谷研究職員の研究室



十勝・晩成海岸でのビーチコーミングの様子

研究活動紹介

文化財の健康診断

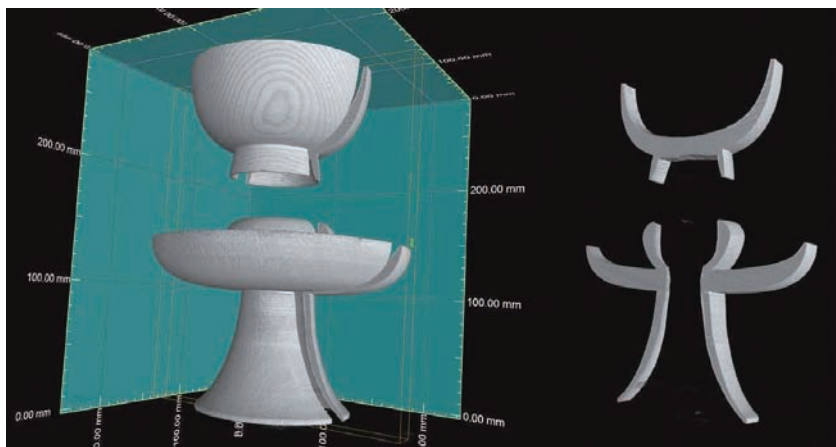
学芸主査 杉山 智昭

1972年生まれ。江別市出身。
北海道立林産試験場研究員
を経て2009年より北海道開
拓記念館学芸員。2015年北
海道博物館開館に伴い現職
に。専門は保存科学。



文化財の保存科学を専門とし、北海道博物館の収蔵資料の保存環境を整える役割を担う杉山学芸員に、研究活動や、日々の取り組みを取材しました。
—— 杉山学芸員が企画を担当した第5回企画テーマ展「アイヌ民族資料を守り伝える力」（2016年4月28日から6月5日に開催）は、資料とともに、コンピューターグラフィックによる、資料の立体図や、輪切りにしたような図が展示されていました。こういった試みの展示だったのでしょうか。

北海道博物館では現在、道内外の博物館と協力し、地域文化財保存の観点から様々な資料に対する科学的な調査を行っています。今回の展示は、その活動の一環としてアイヌ民族資料を対象に実施された調査結果の一部を、実物資料とともに紹介したものです。資料（モノ）はいくら大切にしていっても、長い時間が過ぎる間に傷んでしまうのは避けられません。いつまでも良い状態で資料をのこし、未来へ伝えていくには、資料の構造や材質を知り、劣化や損傷の状態を詳しく知った上で適切な措置を講じていかなければなりません。これは人間に例えると「健康診断」と「治療」にあたるもので非常に重要な考え方です。私たちが体調不良を感じて病院を訪れた際、外見からの診断ではわからない病気が様々な検査機器で発見されることもたくさんあるように、文化財についても外部観察だ



けでは隠れている劣化や損傷を見つけ出すのが困難な場合が多々存在しています。特に自分から「体調不良を訴える」ことのできない文化財については、こちら側から積極的にその現状をチェックしていく必要があります。このような時に、科学的な調査がどのような役割を果たすことができるのかを広く知っていただくことを大きな目的としてこの度の展示を企画しました。

—— 展示を作り上げる上でどのような科学調査を行ったのですか。

調査ではもちろん、貴重な資料を分解したりすることはできません。そこで今回の展示においては、「X線CTスキャナ（三次元のレントゲン装置）」と「蛍光X線分析装置（物質の元素構成を調べる装置）」という機器を使用して資料を壊すことなく、外見からは見ることのできない内部の構造がどのようなになっているかを観察するとともに、資料がどのような素材でできているのかについて調べた結果を公開しました。

—— そうした調査は、さまざまな資料に対して行うことが可能かと思いますが、特に今回、アイヌ民族資料を対象にしたのはなぜでしょうか。

北海道には、アイヌ民族がみずから製作し、あるいは交易によって手にいれた生活に関わる様々な道具が数多く伝えられています。ただ残念なことに、これらの資料のなかには、大きな劣化が進んでしまっているもの、修理が施されたものも多く存在しています。さらに、体系的な科学調査が未だほとんど手つかずの状況にあるため、適切な展示や保存・修復を行う上で重要となる正確な劣化範囲や材質、構造、製作・修復技法などに関する情報が極端に不足しているのが現状です。そもそも今回の展示企画は、平取町に複数保管されていた木製杵^{きね}の劣化状態を外部観察だけでは評価することが難しかったため、平取町立二風谷アイヌ文化博物館と共同でX線CTスキャナを用いて内部構造調査を行ったことがきっかけとなったものなのです。また、アイヌ

民族資料は、誰がいつどこで、どのような素材を用いてつくったのか、あるいは入手するにいたった交易ルートなどについて不明な点が多い資料グループでもあります。科学調査は、そうした情報を、のこされた資料から引き出す、新しい手段ともなります。そのためには、多角的な視点から、さまざまな分野の専門家に、この科学調査の成果を利用してもらうことが不可欠です。将来的にはアイヌ民族資料に関わる情報が蓄積・共有化されることで、かつてのアイヌ民族の生活や文化を、より鮮やかに浮かび上がらせることができるのではないかと考えています。こうした科学調査に基づいた文化財の健康診断は、アイヌ民族資料のみならず、北海道に受け継がれてきた様々な資料を未来に守り伝えていく上で、大変有効な手段ですので、今後、必要かつ一般的な手法として実施可能な体制が北海道内で整備されていくことが望まれます。



写真

左頁上：第5回企画テーマ展「アイヌ民族資料を守り伝える力」展示風景

左頁下：X線CTスキャナによる杯と天目台の内部構造調査
資料（二風谷アイヌ文化博物館所蔵）

右頁左：収蔵庫の温湿度計を確認する杉山学芸員

北海道博物館の展示場や収蔵庫内の温湿度は、資料に負担をかけないために、一定になるように、空調を操作しています。館内のあちこちに設置した温湿度ロガー（温湿度の変化を記録する装置）によって、温湿度の変化を記録し、急激な変化などの異変があった場合には、杉山学芸員が中心となり、原因を調査し、空調の設定を変える、加湿器や除湿機を設置するなどの対処をします。

左頁右：収蔵庫の環境を確認する杉山学芸員



博物館スタッフインタビュー

来館者と博物館をつなぐ、解説員

北海道博物館には、「総合展示室」や「はっけん広場」「図書室」で来館者の方々を案内する、14名のスタッフがいます。折館解説員に、お話をうかがいました。

——「総合展示室」ではどのような仕事をされていますか。

総合展示室内の1Fと2Fに、それぞれ「情報デスク」があり、解説員が常駐し、来館者の質問を受けています。また、開館日の14:00～15:00には、総合展示室をまわりながら、みどころを1時間でお話する「ハイライトツアー」を行っています。事前のお申し込みは不要で、総合展示室の入場券をお持ちでしたら、どなたでも参加できます。

——折館解説員のハイライトツアーに参加されていた方は、随分熱心に耳を傾けていたように見えました。どんな方が参加されていますか。

道外から来館される方や、親子で参加される方、さまざまです。先日は、一人の参加者の方が、かつての北海道の冬の厳しさをお話ししてくださり、他の参加者の方がその方に質問していたり、思いがけず参加者同士の交流がありました。昔の北海道の暮らしのことなど、来館者の方から教えていただくことは多く、自身の解説にもいかしています。



解説員 折館 里佳

札幌市出身。1993年より北海道開拓記念館解説員。2015年北海道博物館開館に伴い現職に。好きな分野は縄文文化。

——「はっけん広場」ではどのような仕事をされていますか。

「はっけん広場」では、さまざまな体験ができる「はっけんキット」を約40種類用意しています。例えば、アンモナイト化石や動物の毛皮などの博物館資料に触れるもの、縄文文化の土器や石器、アイヌ民族の道具や衣装、明治・大正・昭和の生活用具やおもちゃや着物を使ったり着たりするものがあります。解説員は、キットの用意や、使い方の説明、体験の手伝いをしています。土・日・祝日には、羊毛のマスコットやしめ縄など、ものづくりができるイベントを行っています。こちらは時期により異なるメニューを用意しています。どんなものを、どのようにつくっていただくかを、学芸職員とともに考え、企画しています。

——人気のキットはなんですか。

コマやけん玉、お手玉など、一昔前の遊びをする方が多いです。年齢の低い方が、高齢の方に使い方を教わっている様子もよく目にします。また、縄文文化の道具で釣りを体験するキットなど、自分が工夫してつくったキットを利用してもらえると嬉しいです。

——「はっけん広場」を訪れた来館者の方からどんな声をかけられますか。

博物館にこうした気軽に遊べる場があるとは知らなかった、とよく言われます。年齢の低い方でも、自由にキットで遊ぶことができるので、気兼ねなく利用しやすいと感じる方が多いようです。何度も繰り返し来てくださる方もいます。「はっけん広場」だけの利用なら、入館料はかかりません。気軽にご利用していただきたいです。



折館解説員による「ハイライトツアー」



「はっけん広場」で「はっけんキット」の利用を手伝う堀解説員



「情報デスク」で来館者の質問に答える浅井解説員

アイヌ民族文化研究センターだより

第2回アイヌ文化巡回展開催

当館アイヌ民族文化研究センターが今年度から開始した「アイヌ文化巡回展」。10月からその第2回を美幌町・美幌博物館で開催します。

今回もテーマは「地名」です。当館が所蔵する、アイヌ語地名研究の第一人者・山田秀三氏(1899～1992)が遺した資料から、美幌町とその周辺での地名調査の記録をまとめたノートや地図などを紹介していきます。



山田秀三氏資料 美幌の地形図

第2回アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～」 2016 美幌

期間 : 10月8日(土)～11月27日(日)

会場 : 美幌博物館(網走郡美幌町字美禽)2階ロビー TEL 0152-72-2160

開館時間: 9:30～17:00 巡回展のみの観覧は無料(美幌博物館常設展観覧には別途入館料が必要)

休館日 : 10月10日(月)を除く毎週月曜日、10月11日(火)、11月4日(金)、11月24日(木)

関連講座: 「山田秀三文庫の地名調査資料について」 10月8日(土)10:00～12:00 講師: 小川正人(当館職員)

『アイヌ文化紹介小冊子』のご案内

夏休みから秋にかけてのこの時期、「学校の自由研究のため、アイヌ民族の伝統的な衣服について調べたい」など、アイヌ文化に関するさまざまな調べごとのご相談が、当館にも多く寄せられます。

そんなとき、お薦めしているのが、アイヌ民族文化研究センターで編集している『アイヌ文化紹介小冊子 ポンカンピソシ』です。

この小冊子では、先ず学術的な正確さを第一に心がけました。信頼できる一次資料や最新の研究成果に立ち返ることができない内容は載せないようにしています。また、写真を多く使い、巻末には参考文献を載せるなど、学習のための見やすさや便利さを目指しました。要点には英訳も付けています。



『アイヌ文化紹介小冊子 ポン カンピソシ』

「ポン カンピソシ」は、「小冊子」という意味を、アイヌ語で pon (ポン)〈小さい〉+ kanpi (カンピ)-sos (ソシ)〈紙・束〉と表したものです。「ソシ」の発音は…小冊子1「話す」をご覧ください!

アイヌ文化小冊子は、道内の主要な図書館などでご覧になれます。

また、当館図書室では、ご希望の方に配布しています。当館ウェブサイト内の下記URLから紙面のPDFファイルをダウンロードすることもできます。

http://ainu-center.hm.pref.hokkaido.lg.jp/05_005.htm

バックナンバー

- 1 話す(アイヌ語)
- 2 着る(衣文化)
- 3 食べる(食文化)
- 4 住まい
- 5 祈る(信仰)
- 6 口頭文芸(口承文芸)
- 7 芸能(歌・踊り・楽器)
- 8 民具
- 9 地名

行事のおしらせ

10月～11月

※ 行事の申し込みについては、『行事あない2016年度後期』もしくはウェブサイトをご覧ください。

展示会

北海道博物館第6回企画テーマ展
きれいだ？不思議？楽しい？！ 漂着物
ー北の海辺でお宝みつけ！ー
10月14日(金)～11月27日(日)
特別展示室・無料



北海道博物館第2回アイヌ文化巡回展
アイヌ語地名を歩くー山田秀三の地名研究からー
10月8日(土)～11月27日(日)
美幌博物館・無料

イベント

チャレンが講座
アイヌ語講座①アイヌの物語に親しもう
10月2日(日) 13:30～15:30
講堂・無料
担当/大谷洋一
定員/先着50名(事前申込、9月3日(土)より受付)

チャレンが講座
アイヌ文化研究の最前線①
ロミン・ヒチコックがみた北海道・アイヌ文化
10月9日(日) 13:30～15:30
講堂・無料
担当/出利葉浩司
定員/先着100名(事前申込、9月10日(土)より受付)

チャレンがワークショップ
アイヌ民族の植物利用ーイラクサの繊維をとってみよう
10月15日(土) 10:30～12:30
講堂・無料
担当/大坂拓・遠藤志保
定員/先着20名(事前申込、9月16日(金)より受付)

チャレンが講座
アイヌ文化研究の最前線②
アイヌの木綿衣の刺しゅう その歴史をたどる
10月16日(日) 13:30～15:30
講堂・無料
講師/津田命子氏(元北海道立アイヌ総合センター学芸員)
定員/先着100名(事前申込、9月17日(土)より受付)

チャレンがワークショップ
ムックリを作って、鳴らしてみよう
10月23日(日) 10:30～12:30
講堂・無料
担当/甲地利恵
定員/先着20名(事前申込、9月24日(土)より受付)

チャレンがワークショップ
自然観察会④落ち葉の下の生き物をさがそう
10月29日(土) 10:00～12:00
野幌森林公園内(自然ふれあい交流館集合)・無料
担当/堀繁久・水島未記・表深太・濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)
定員/先着40名(事前申込、9月30日(金)より受付)

チャレンが講座
アイヌ文化研究の最前線③
アイヌ口承文芸の「語りかた」をさぐる
10月30日(日) 13:30～15:30
講堂・無料
講師/奥田純己氏(札幌学院大学)
定員/先着100名(事前申込、10月1日(土)より受付)

特別イベント
アイヌ音楽ライブ
11月3日(木・祝) 12:00～13:00
記念ホール・無料
出演/MAREWREW(マレウレウ)
定員/先着200名(事前申込不要)

文化の日講演会
漂着するクジラを追って
11月3日(木・祝) 13:30～15:30
講堂・無料
講師/山田格氏(国立科学博物館名誉研究員)
定員/先着100名(事前申込、10月4日(火)より受付)

チャレンが講座
アイヌ語講座②アイヌの物語を聴いてみよう
11月6日(日) 13:30～15:30
講堂・無料
担当/遠藤志保・大谷洋一
定員/先着50名(事前申込、10月6日(木)より受付)

チャレンが講座
総合展示「アイヌ文化の世界」を語る①
日本の博物館所蔵の樺太(サハリン)アイヌの金属口琴(仮題)
11月13日(日) 13:30～15:30
講堂・無料
講師/直川和緒氏(日本口琴協会会長)
定員/先着100名(事前申込、10月14日(金)より受付)

チャレンが講座
文書のなかの「漂着」をたどる
11月20日(日) 13:30～15:30
講堂・無料
担当/山田伸一
定員/先着50名(事前申込、10月21日(金)より受付)

チャレンが講座
総合展示「アイヌ文化の世界」を語る②
アイヌの儀礼用冠ー地域差と変化を探索
11月27日(日) 13:30～15:30
講堂・無料
担当/大坂拓
定員/先着100名(事前申込、10月28日(金)より受付)

活動ダイアリー

8月～9月

8月6日 チャレンが子どもクラブ「世界ーおいしい火山の実験」開催
8月7日 チャレンが子どもクラブ「アンモナイトのレプリカをつくろうB」開催
8月10日 第1回北海道立総合博物館協議会
8月11日 屋上スカイビュー開放
ミュージアムトーク「じっくり解説 蝦夷地のころ」開催
8月13日 チャレンが子どもクラブ「自然観察会 草原の主・トノサマバッタをさがそう」開催
チャレンが子どもクラブ「アンモナイトを解剖しようB」開催
イオンモール札幌発寒店にてパネル展開催(～21日)
8月14日 チャレンが子どもクラブ「羊毛でアンモナイトがつくれちゃう!」開催
8月15日 博物館実習(～26日)
8月20日 講演会「大地とともに生きる～ワインにかける想い」開催
イオンモール札幌発寒店にて「北海道ジオパークまつり」開催(～21日)
8月21日 チャレンが子どもクラブ「のこぎりでコースターをつくろう」開催

8月27日 チャレンが子どもクラブ「文字で遊ぼう」消しゴムはんこづくり」開催
8月28日 チャレンが講座「進化の歴史を解き明かそう!」開催
9月4日 チャレンが講座「古文書講座① ジオパークにゆかりの古文書を読む」第1回開催
9月10日 チャレンが子どもクラブ「じっくりムックリ講座」開催
9月11日 講演会「ジオパークで見る・学ぶ・食べる」開催
9月18日 チャレンが講座「古文書講座① ジオパークにゆかりの古文書を読む」第2回開催
9月19日 屋上スカイビュー開放
ミュージアムトーク「ふるさとはどこ? 北海道の動物たち」開催
9月22日 屋上スカイビュー開放
ミュージアムトーク「一品百考:今回は糞突棒のおはなしです」開催
9月24日 チャレンがワークショップ「自然観察会③ 動物のフンをしらべよう」開催
9月25日 フォーラム「ジオパークへ行こう!」開催

来館者数

○2016年7月～8月
総合展示室 39,986人 特別展示室 40,593人 はっけん広場 9,347人
○累計(2015年4月～2016年8月)
総合展示室 212,217人 特別展示室 155,823人 はっけん広場 49,784人

森のチャレンがニュース 第5号

発行日: 2016年9月30日
編集・発行: 北海道博物館
〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
Tel. (011) 898-0456 Fax. (011) 898-2657
ウェブサイト <http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp>
©Hokkaido Museum, 2016